

今日は久しぶりの青空。澄んだ空気を胸いっぱい吸い込み、ウーンと背伸びを一つ。今日は何だかいいことがあるそう。

コツ。コツ。コツ。ためらいがちに響くヒールの音が、遠くから聞こえてきた。「こんにちばっ。お願いしますー。ばっちり決まったパンツスーツに、書類がいっぱい入りそうな鞆。今日の相談者はYさん、三十歳。大学卒業後入った会社で、ずっと営業職に就いている。だからか、とって元気がいい感じ。今日の青空のような笑顔にっられて、私も笑みを浮かべながら相談室へ。」

「ふっ、そお越してくださいました。今日は良いお天気ですね。仕事なんかせずにごどこかへ遊びに行きたい気分ですね。」なんて話をしていくうちに、少しずつYさんの表情が曇り、ポツリ、ポツリと話し始めた。「今の仕事は、自分から希望したんですが、とても忙しくて」

全速力で仕事を終えて、も、次から次へと仕事が舞い込んでくるし、後輩の指導も任されて、もつ、どうしていいのかわからないという。「同じ課には女性の

仕事、やめたいの？

先輩がいなくて将来も不安だし。私には合わない仕事かもしれないので、いつそ転職した方がいいのでは、と思うようになって……」と言いつ終えるや否や、どつと涙が溢れ出した。

私は、そつとティッシュを渡し、Yさんの気持ちが落ち着くまでゆっくりと待った。数分後、Yさんは堰を切ったかのように、溜まっていた気持ちを吐き出した。時間を追われ切羽詰まっして仕事をこなす姿を尻目にさつさと帰る上司、ひとこと言うとおっぱつとふくれてしまつ後輩、残業続きで帰毛は午後十時過ぎになることも。休日出勤、仕事の持ち帰りも当たり前。自分がすり減っていくような状態で、とても結婚や子育てと仕事の両立をしている自分が想像できない……と。私は「うん、うん」とう

不満の陰に本当の自分



まつおか・さちよ 一九七一年福井市生まれ。大学卒業後、衣料品メーカー、社会保険労務士事務所を経て、特定社会保険労務士、産業カウンセラー、キャリア・コンサルティングの各資格を取得。二〇〇七年八月から「ふくい女性活躍支援センター」で女性のためのキャリア相談に携わっている。

なすき、ときには「それはひどいよねー」と一緒になつて、腹を立てたり悔しがつたりしながら、じつくりYさんの話を聞いた。ひたすら聴いた。すると三十分ほどたったころ、Yさんの言葉の節々に少ずつ、変化が見られ始めた。でもやっぱり……、お客さんが「あなたに任せて良かった」と言ってくれるのは嬉しい……」

思い切って聞いてみた。「で、やめたいの？ 本心はどうなの？」すると「うん、どうかな。この仕事は好きなのかも……」。長い沈黙。

「もう少し頑張ってみようかな」。どうやら、職場環境への不満の中で埋もれていた仕事に対するやりがいや自分の本当の気持ちに気が付いたのだろう。さっき

女性たちにとって真の働きがいつて何だろう、働きやすい環境って。福井市の県生活学習館「ふくい女性活躍支援センター」には連日、働く福井の女性たちが相談に扉をたたく。悩み、ときに挫折しながらも懸命に前へ歩もうとする女性たちを温かく見つめ、後押しする松岡幸代さんの「相談日記」を紹介する。



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)